相渡候ニ付同所ニ而候處猶渡候ニ而登
城中ニ而當番中迄罷出候ニ付拙者宅ニおゐて
御渡下ヶ申ニ付為見分罷越通行ニ而拝承
以て祝者遠御返事下ヶ候様申上

十月

川村大和守

寅十月廿六日御沙汰之通申出
さし 新古詩 申上候

大和守
承置

稲葉美濃守殿御渡候書付寫

御総軍奉行衆
御書奉行衆
遠国奉行衆
清水小普請組支配衆
大目付へ

下三田 表六
横本淺藏
富田彦右衛門
万宮玄蕃頭様御下
中澤原之助

商部急務ニ付御用金ヶ増与ニ而御指引

訳別

勅

江除服之後
江所より 云 仰出に付 今日より
御忌云為解に被候江後之面々に可云
達に
右之通 去月廿六日 於京都表達に為
忌候 向々に可云達に
十月

江同人江後出書付写
大同付に
去月廿六日
御忌云為
解に付 同代判に相 於京都云 仰出に

可被當地之末月代利常向も同代
利以相一の所在者
十月

寅十月廿六日付恵川丞江当分宮城

河内守殿江城中書本字
江後守本行 流
外出本行 流
遠出本行 流
清水小普請組 流
大月付

御代替御礼謁之儀
初日
正月朔日出仕之分